



2021年4月9日

がん診療・研究の未来を変える

時空を超えて夢をかなえる挑戦

栃木がんセンターバイオバンク

栃木県立がんセンターは、2021年4月1日に栃木がんセンターバイオバンクを設立しました。

栃木がんセンターバイオバンクは、患者さんから提供いただいた血液、尿や組織などの検体を集めて凍結保存し、国内外の大学・研究機関や企業との共同研究に使用することや、研究者に提供することにより、医学研究の発展に資することを目的としています。

○バイオバンクとは

バイオバンクとは、血液、尿や組織などの検体を集めて、国内外の大学・研究機関、製薬会社や診断薬メーカーなどの研究者に提供する研究のための基盤です。

個々の研究ごとに検体を集めるのではなく、検体をバイオバンクに集めた上で様々な研究プロジェクトに提供することで、無駄なく効率的に利用できます。

また、集め方や保存方法を標準化し、品質を向上させることで、より質の高い研究を行うことが可能になります。

バイオバンクは、医学研究全体を効率的・組織的に推進するための鍵になると言われています。

○栃木がんセンターバイオバンクの特徴

1 希少がん・難治がんに焦点を当てていること

近年、多くの治療法が開発され、治療成績が向上していますが、希少がんや難治がんにおいては、有効な治療法が開発されておらず、治療法の開発に向けたさらなる研究開発が求められています。

私たちは、希少がん及び難治がんの臨床検体の収集に力を入れ、新しい治療法の開発に役立つバイオバンクを目指します。

2 腫瘍組織を生きた状態で保存すること

抗がん剤への応答性や薬物の代謝など、生きた腫瘍細胞から得られる情報はがん研究において有用です。適切な方法で凍結保存することによって、凍結腫瘍組織から細胞株を樹立したり実験動物を作成することが可能です。

私たちは、腫瘍組織を生きた状態で保存することで、価値ある情報を提供できるバイオバンクを目指します。

3 適切な費用を負担いただくこと

バイオバンク試料の長期間に渡る収集や保管、及び臨床病理所情報の適切な管理体制の維持には安定した財源が必要です。また、利用者にとって使いやすいバイオバンクにするため、遠隔地からでも容易にアクセスできるように手続きを効率化しました。そのような体制を維持するために財源が必要となります。

バイオバンクの維持管理に必要な費用を賄うため、利用者の方には適切な手数料を負担していただきます。

4 受託解析を行うこと

臨床検体を用いた解析には、最先端の高度な技術が求められます。また、結果の解釈にはがん研究の専門家が関与した方が良い場合が多々あります。

バイオバンク利用者には、貴重な臨床検体から有用な情報を引き出していきたいので、私たちは受託解析を行います。

栃木キャンサーバイオバンクは、がんの新しい治療法の開発に有用な良質の臨床検体と情報を提供いたします。

詳しくは、ホームページを御覧ください。



栃木キャンサーバイオバンク
Tohigi Cancer Biobank

<http://www.tohigi-cc.jp/biobank>



<お問い合わせ>

〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南 4-9-13

地方独立行政法人栃木県立がんセンター

広報広聴センター 池田・佐藤

(電話番号)028-658-5151(代表)

(ホームページ)<https://www.tohigi-cc.jp>

